



与謝野町合併20周年記念

第十四回与謝野町 蕪村顕彰全国俳句大会

題字 宮津天橋高等学校加悦谷学舎書道部二年 林 杏奈



与謝蕪村筆
「方士求不死薬図」(左隻)
(施薬寺蔵)

令和7年
◆募集期間 6月20日(金)～8月19日(火)

(締切は「ハ・イ・ク」の日)

◆俳句大会 11月30日(日)

与謝野町立生涯学習センター知遊館

3種類の事前投句があります

①自由題の部(三句一組)

テーマ・季節は問いません。一人一組限りとなります。

選者 塩見恵介氏

関西現代俳句協会理事 俳句グループ「まるたけ」代表

山田佳乃氏

(公社)日本伝統俳句協会常務理事 「円虹」主宰

②前書俳句の部(一人一句)

あなたの一句の背景や舞台などを、20字以内の前書に託してお書き添え下さい。

選者 田中春生氏

(公社)俳人協会評議員 「朱雀」主宰

山根真矢氏

(公社)俳人協会幹事 「鶴」同人

③与謝野町合併20周年記念部門 与謝野をうたう(一人一句)

与謝野町を題材にした句のみを募集します。
季節は問いません。

選者 南うみを氏

(公社)俳人協会評議員 「風土」主宰

◆前書俳句

日本の和歌や俳句は、わずかの言葉を用いて、四季折々の美しい景色や人間の豊かな心をうたっていました。これほど多彩な詩歌を可能にしたものとして、「前書」の働きが重要です。右の芭蕉俳句は、「草庵」という前書によって、深川の芭蕉庵で暮らす蕉の音に耳を傾ける情景を鮮明にします。蕪村の句では、「雲裡屋」という前書によって、「天橋立の名残惜しい場面が胸に迫ります。また「行く秋にとどまる法に秋二つ」とよんだ明治の正岡子規は、「漱石に別る」と前書を添えて、故郷松山での別離に及んで、ふたりの友情に思いをこめました。前書に「わたしの一句」を試してみてください。

藤田真一(関西大学名誉教授)

これまで与謝野町俳句大賞を受賞した前書俳句作品

- | | | |
|----------------|----------------------|---------|
| 第一回
(平成二四年) | 耳鼻咽喉科医院にて | 伊東 建二 |
| 第二回
(平成二五年) | 京都金福寺に参りて後丹後加悦を訪ねたれば | 須田 さらさ |
| 第三回
(平成二六年) | 練習船時代の三橋敏雄を知り居れば | たなか しらほ |
| 第四回
(平成二七年) | 息子の結納のため盛岡から松山へ | 菅間 幸子 |
| 第五回
(平成二八年) | マドンナを迎へに伊予へ春の潮 | 西 史紀 |
| 第六回
(平成二九年) | 汗かいて護憲の側に立つてゐる | 長谷川 瞳 |
| 第七回
(平成三〇年) | 娘の秋(十月)の出産を控えて | 小川 弘 |
| 第八回
(令和元年) | 二人分自愛の秋となりけり | 大橋 節子 |
| 第九回
(令和二年) | 大峯あきら先生遷化 | 竹内 澄子 |
| 第十回
(令和三年) | 京都アニメーションを悼む | 杉岡 竜風 |
| 第十一回
(令和四年) | 献花へと一歩踏み出す炎天下 | 大山 文子 |
| 第十二回
(令和五年) | 姉の居るコロナ禍の施設 | 新庄 富美 |
| 第十三回
(令和六年) | まだ会へずもう会へぬかも秋の蟬 | 守屋 明俊 |

前日吟行ツアー・蕪村トークのご案内

天橋立を横一文字に眺める大内峠に、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている「ちりめん街道」、そして短歌と俳句の資料館・江山文庫では蕪村の直筆俳画作品をご覧いただける、俳句大会前日の宿泊と当日会場への送り付き特別プランです。



行 程

11/29 13:00 天橋立駅～江山文庫～
ちりめん街道～大内峠一字観公園～ホテル泊
11/30 9:00 ホテル発～知遊館(会場)

吟行ツアーのお問合せ・お申込みはこちら
海の京都DMO 与謝野地域本部(与謝野町観光協会)
京都府与謝郡与謝野町加悦1060
電話0772-43-0155 FAX0772-43-0159
Email:yosano-kanko@joy.ocn.ne.jp



【車座 蕪村トーク】

11/29夕刻には蕪村研究者の関西大学名誉教授 藤田真一氏を囲み、蕪村について語り合う茶話会を行います。

短歌と俳句の資料館

与謝野町立江山文庫

※毎週月曜日休館
祝日の場合は翌日休館

〒629-2421 京都府与謝郡与謝野町字金屋1682番地
電話: 0772-43-2180 (FAX同じ)
http://www.kozan-bunko.sakura.ne.jp (与謝野町立江山文庫公式ホームページ)



主催 与謝蕪村顕彰与謝野町俳句大会実行委員会
後援/京都府 (公社)日本伝統俳句協会 (公社)俳人協会 (一社)現代俳句協会 国際俳句協会
京都俳句作家協会 俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会 協賛/宮津ロータリークラブ



与謝野町合併20周年記念 第14回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会 募集要項



事前投句 応募期間

令和7年6月20日(金)～8月19日(火) (当日消印有効)

※ただし、海外からの投句作品は、応募期間内に必着とします。

応募規定

1 作品 未発表作品に 限ります。

- ① 自由題の部 3句1組 1人1組に限ります。
② 前書俳句の部 前書20字以内 1人1句に限ります。
③ 合併20周年記念部門
与謝野をうたう 与謝野町を題材にした句 1人1句。

2 応募料

- 一人あたり1,000円とします。
(ただし、海外投句者の方は無料とします)
※ 上記投句料で自由題3句+前書俳句+与謝野をうたう に応募できます。
いずれか一部門または二部門のみの応募でも金額は変わりません。

○ 応募料は、次の郵便振替口座に振り込んでください。
振替口座 00990-3-272886
加入者名 与謝蕪村顕彰与謝野町俳句大会実行委員会
※ いかなる場合も応募料は返却しませんので、ご了承ください。

3 応募方法

- (1) 所定の応募用紙に必要事項を記入し、郵便振替払込金受領証又はその写し、または定額小為替を添えて応募してください。インターネットのホームページからも応募できます。
※ インターネット応募の場合、入金方法が異なりますので、ホームページでご確認ください。
※ 海外投句者の表記についてもすべて日本語表記に限ります。
(2) 封筒の表には「俳句作品」と朱書きしてください。
(3) 応募規定に違反する場合、また類句や類想が認められる場合には、入選・入賞を取り消すことがあります。

4 応募先

- (1) 郵送
○ 短歌と俳句の資料館 与謝野町立江山文庫
〒629-2421 与謝野町字金屋1682番地
(2) インターネット
○ <http://kozan-bunko.sakura.ne.jp/haikuprize.html>
※ 左の二次元コードからもアクセスできます



主催

与謝蕪村顕彰与謝野町俳句大会実行委員会

後援

京都府 (公社)日本伝統俳句協会 (公社)俳人協会 (一社)現代俳句協会
国際俳句協会 京都俳句作家協会 俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会

協賛

宮津ロータリークラブ

今から約300年前に生まれた与謝蕪村の、母親の故郷といわれる丹後・与謝野町。名句「夏河を越すうれしさよ手に草履」には「丹波の加悦といふ所にて」の前書があり、当地で詠まれたことがわかります。大江山連峰や野田川の流れ、大内峠から眺める天橋立など、豊かな自然をいただく与謝野町から、丹後を訪れた文人たちが培ってきた俳句文化の振興と、与謝蕪村の顕彰を目的として、第14回目となる俳句大会を開催します。

審査と選者

次の選者により部門別に審査を行い、入賞作品を決定します。審査結果については、入賞者に通知します。なお、審査についての問い合わせ及び異議は一切受け付けません。

●事前投句選者

- ① 自由題の部 塩見恵介氏 関西現代俳句協会理事
山田佳乃氏 俳句グループ「まるたけ」代表
(公社)日本伝統俳句協会常務理事
「円虹」主宰

② 前書俳句の部 田中春生氏 (公社)俳人協会評議員
山根真矢氏 「朱雀」主宰
(公社)俳人協会幹事
「鶴」同人

③ 合併20周年記念部門
与謝野をうたう 南うみを氏 (公社)俳人協会評議員
「風土」主宰

●当日投句選者

上記5名の事前投句選者ほか ならびに互選
※互選は当日投句者のみ参加できます。

表彰

下記大会で自由題の部・前書俳句の部・与謝野をうたう・当日投句と、部門ごとに表彰します。加えて、自由題・前書俳句の2部門を横断する「蕪村記念賞」を表彰します。町内小中高生対象の俳句賞「令和のBuson俳句大賞」の表彰をあわせて行います。当日投句は選者選の賞のほか互選優秀作品の表彰もあります。

俳句大会

- 日 時 令和7年11月30日(日)
○ 会 場 与謝野町立生涯学習センター知遊館
○ 日 程 9:00 ■受付(当日投句受付開始)
10:30 ■開会(当日投句受付締切)
事前投句・令和のBuson俳句大賞表彰

12:00 ■互選
13:10 ■互選受付締切
13:20 ■与謝蕪村顕彰プログラム
14:50 ■当日投句表彰
15:30 ■閉会

作品集

事前投句に応募された全作品を全句集として刊行し、応募者全員に送付します。
(海外投句者を除きます。※海外在住でご希望の方は応相談)

個人情報の 取扱について

主催者は個人情報の重要性を認識し、個人情報の法律及び関連法令等を厳守し、主催者の方針に基づき個人情報を取り扱います。本俳句大賞応募者へのサービス向上を目的に大会案内、作品集送付、次回大会の案内に利用いたします。また、事務局から応募内容に関する確認連絡をさせていただくことがあります。